

## 教員研修生ヴルシャリ（Joshi Vrushali Narayan）さんによる国際交流授業 - 『インドの装飾模様形の紹介』 -

ヴルシャリさんは、2011年9月に国費留学生としてインドから来日し、半年間大阪大学において日本語研修を受けた後、2012年4月から翌年3月まで大阪教育大学渡邊研究室において、教員研修生として図工・美術教育の研究にたずさわりました。インドのムンバイ近郊のナシックの私立小・中学校において11年間、図工・美術の専科の先生として勤務した経歴があります。彼女は、一年間大阪教育大学附属学校をはじめ多くの大阪市の小学校を訪ね、授業参観、教員研修や研究会の参加などを通して日本の美術教育の実態を調査しました。また、それらの一環として大阪市立東田辺小学校の協力のもと、2012年11月15日に東田辺小学校図工展の調査訪問後、1年1組児童にインド式挨拶を紹介するなど国際交流を行いました。その続きとして2013年2月18日の第2-4校時に同校の1年1組児童26名(2-3校時)、1年2組27名(3-4校時)に「インドの装飾模様形の紹介」というテーマでインド式図工授業を実践しました。

### 授業の内容

#### ◇学習目標：織物や写真の中から、インドの模様を発見

する。好きな動物や植物などを線描きし、三角や四角、二重線等で囲み、装飾的な模様をつくる。

#### ◇ねらい：インドの文化には、たくさんの装飾模様がある。

装飾的な形は、物を飾る目的で、いろいろなものに用いられる。織物、建物の壁面、器など。模様は日本の伝統的な模様とは異なり、インドのものはより装飾的で、花、植物、鳥、動物などの自然の形が発想の源となる。

本授業では、1年生を対象にインドの装飾的な形を紹介する。

#### ◇導入：はじめに「インドの服を知っていますか？」という投げかけがあり、ヴルシャリさんがインドから持ってきた服やストール、サリーをみんなで広げて見た。その活動の後、黒板にインドの模様を実際に描いて見せた。(複雑な自然の形→幾何学的な形)また模造紙に描いた模様のチャートを掲示した。インドの子どもたちの作品も見せた。

#### ◇展開：実際にインドの模様を描くことを子どもたちに告げ課題を指示する。「今日、私たちは、織物や手元にある写真から模様を見つけます。そして、あなたが一番好きな装飾的な形を描いてみます。最初にフェルトペンで枠を描きます。」各班にサンプルの資料を配布。フェルトペンで模様を描き終わったら、オイルパステルで色を付ける。最後4時間目に2クラス合同で作品鑑賞をした。

